

1. 表紙目次 特集5：サイエンス・フェスティバル・・・の次の行

[訂正前]

特集6：キャンパスを振り返って・・・新保頼人、 <u>銚田雄介</u> 、 <u>首藤亜里砂</u>	35
同窓会支部便り：富山支部、関東支部	37
事務局通信：会員情報、物故者、教職員異動、会議報告、キャリア・デザイン講座支援、他	39
編集後記、癒し写真、2019（令和元）年度総会・講演会・懇親会開催案内	46

[訂正後]

特集6：キャンパスを振り返って・・・新保頼人、 <u>銚田雄介</u> 、 <u>首藤亜里砂</u> 、 <u>吉川貴寛</u>	35
同窓会支部便り：富山支部、関東支部	39
事務局通信：会員情報、物故者、教職員異動、会議報告、キャリア・デザイン講座支援、他	41
編集後記、癒し写真、2019（令和元）年度総会・講演会・懇親会開催案内	48

2. p.16 左側上部付近「4. 大学間ネットワーク・・・」の章 この章の上から8行目

[訂正前]

し、専用端末61だとPC56台を接続し、・・・

[訂正後]

し、専用端末61台とPC56台を接続し、・・・

3. p.34 後半 「よかった！サイフェス！」生物圏環境科学科代表 3年 白鳥裕太郎

の■生物圏環境科学科企画紹介（ブース名称、内容、メンバー）の追加（編集ミスで欠落した部分）

3年：小山 華慧、我山 真歩、阪本 悠輔、
松島 夏菜恵、馬庭 千菜実、吉田 光佑
・・・ここへ（写真との間に）、以下を追加

☆クロマトグラフィーでペンの色を分けてみよう！
ペーパークロマトグラフィーを用いた、しおり作りを通して、
化学的分析手法の1つでもあるクロマトグラフィーについて興味を持ってもらう。

3年：山本 健太、野田 昌裕、釦持 雅、武井 柚佳、
松本 茉倫、武田 典子、西山大貴、丹羽竜也、
松浦 匠真

2年：井田慎一郎、小茂尻真凜、品川音唯、野原菜々花、
藤森星奈、山田寛子

1年：小宮山 朋花、中屋 舞美、西向 舞

☆水から学ぶ環境問題

熱塩循環のモデル実験や海洋微生物の観察などを通して、

水に関する環境問題について興味を持ってもらう。

3年：勝田 裕太、阿部 莞爾、川畑 美佳、倉澤 央、
田村 誠也、美濃島 一輝、宮下 陸

2年：大塚 進平、品川 音唯、松本 碧人、長谷川 彩花、
藤本 美柚



昆虫ブースによるクイズ大会の様子

4. 新 p.35 p.34 の欠落原稿の追加で、ページ替えが発生したため、その空きスペースに、2019.03.26 (火) の学位記授与式に「富山大学理学部卒業生・大学院理工学教育部修了生の皆さんへ」のメッセージを追加しました。

富山大学理学部卒業生・大学院理工学教育部修了生の皆さんへ

2019.03.26 (火)

富山大学理学部同窓会

祝卒業・修了

富山大学理学部卒業生・大学院理工学教育部（理学）修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。今日から皆さんは理学部同窓会の正会員です。これからは富山大学の同窓生の一員として、後輩諸君の見本となり、地域社会においては指導者の一人として、今日まで習得してきた知識と、育んできた知恵と、培ってきた実力を遺憾なく発揮し、地域の人々が誇りに思い、人々に信頼され、かつ誇れる富山大学の同窓生として、活躍されることを期待しております。

同窓会からの卒業・修了記念品：シマタニ昇龍工房製「すずがみ」の贈呈

卒業生・修了生の皆さん、ここに記念品として「すずがみ」をお贈りします。

この「すずがみ」は、高岡のシマタニ昇龍工房の伝統工芸士が一点一点製作したもので、四代目昇竜の島谷好徳様は次のように言っておられます。『「すずがみ」と名付けたその商品は、その名の通り、紙のように薄くて自由に曲げることのできる新しい錫商品の提案です。圧延された錫の板を繰り返し金槌で叩くことで、模様を付けるだけではなく、繰り返し曲げることにも耐えられる強さを備え付ける、鍛金職人ならではの商品となりました。金属なのにスプーンと自由に曲がる、「すずがみ」の新しい感覚をお楽しみください。』と。

皆さんには、時折裏返して、理学部同窓会から、卒業・修了記念に贈られたものであることを、思い起こして下さい。理学部そして大学院で培った「自然科学への限らない探究心」と、「徹夜で実験し、考察し、議論した卒業／課題研究への取り組みと問題の解決方法」などを、この「すずがみ」のように、繰り返し自由自在に変形して、耐えられる強さを磨き、応用して行って下さい。



卒業生・修了生の皆さんへ、同窓会からのお願い

理学部同窓会は、会員が 12,000 人を超え、会員相互の親睦を篤くし、理学部との連携を密にして、理学部の発展と社会への貢献に寄与することを目的に、年次総会と記念講演会の開催、富山支部・関東支部活動の支援、同窓会会報 The Basis の年 1 回の発行の事業をベースに、理学部キャリア・デザイン講座への同窓生講師の紹介派遣支援や企業・工場見学会の実施支援、会員名簿の 4 年に 1 回の発行を実施してきています。卒業生・修了生の皆様には、これらの同窓会活動に積極的に参加し、先輩諸氏とこれから増えてくる後輩諸君との交流を深め、理学部の伝統と学生気質、同窓生の誇りを護り育て、継承して行って下さい。地域の人々、県民そして国内外に誇れる理学部同窓生を目指して行動して下さい。これが、同窓会からの皆さんへのお願いです。

では、皆様の今後のご活躍とご健康で幸せな人生を謳歌されるよう、お祈りします。

5. 特集 6：キャンパスを振り返って・・・吉川貴寛様から寄稿して頂いた「社会人博士を目指して」の原稿を、理学部同窓会報 The Basis v38 2019 へ掲載すべく、原稿と写真を受領していたのですが、発行に当たり再確認を怠ったため、不掲載のまま発行してしまいました。広報委員会として以下の対応処置を執らせて頂きます。(1) The Basis v38 2019 の正誤表で、原稿を追加します。(2) The Basis v38 2019 改訂版で、原稿を掲載したカラー版 PDF をホームページに掲載し、必要部数を印刷してお届けします。(3) 次年度の同窓会報 The Basis v39 2020 年版に再掲載します。p.36 の次に、次ページの通り原稿を追加します。

社会人博士を目指して

金剛化学株式会社 吉川 貴寛
理工学教育部 博士後期課程 ナノ新機能物質科学専攻
H17=2005 理工学研究科 化学専攻 修了

・社会人博士を目指すきっかけ

私は現在、理工学教育部博士後期課程に再び入学し富山大学の学生として博士号の取得を目指して勉強しています。目的はもちろん一人前の研究者になることです。

そもそも私は、修士時代は合成有機化学第一研究室で有機合成と構造有機化学について学び、修士課程卒業後は金剛化学株式会社に入社し、それ以降、研究部にて医薬品減薬の開発をしております。大学時代に勉強した知識が役立ち、幾つかの製品開発を成し遂げることができました。しかし、研究者としてはまだまだ未熟です。

どうしたら一人前の研究者になれるのであろうかと考えあぐねている時に、上司から博士課程への進学を勧められました。就職してから数年たった時、担当教員であった林教授（当時 助教授）に社会人博士課程に誘われた事や、研究室の後輩が就職後に頑張って博士号を取得した事も聞いており、働きながら博士号を取得する事に興味を持っていました。「このままではいけない」、「新しい環境で勉強したい」という思いに駆られ、博士課程への進学を目指すこととなりました。

・働きながらの学生生活

正直言いますと仕事・家庭・学業の両立に不安が無いわけではありません。順調に生活が流れている時は問題ありませんが、開発プロジェクトが難航する場合や、子供の世話に追われるときなど、1年を通して全く無いわけではありません。

しかしながら、私のモットーは人生を楽しむ事です。Steve Jobs が“The journey is the reward. Not the destination.”と言っていたように、私も自分の道のりを楽しみながら歩む事が大切だと考えています。一度しかない人生、やり直しができない人生、色々なことに挑戦しないではもったいない。一人前の研究者になる事が目的ではありますが、自身の世界を広げ、見聞を広める事も楽しみに考えています。

・基礎研究は面白い

まだ学生になって半年しか経っていませんが、キャンパスライフを楽しんでいます。理学部で最先端の研究を学ぶこと、これは何よりも面白いです。授業はもちろんの事、研究室のセミナーや学会、修士論文発表会など、なるべくたくさんの学べる場に参加するようにしています。

理学は学問的性質上、物事の本質について学ぶ場で、大学では、「なぜ?」、「なんで?」といった事を追求し研究します。

経済活動が目的となる企業研究とは異なり、真理を探究する基礎研究は奥深く、私の知らない事がたくさん有ることを再認識しました。

2月の修士論文発表会では最先端の研究を公聴することができ、目から鱗の数々でした。十数年前までの私では、自分の研究分野ですら着いていく事がやっとでしたが、今回は色々な先生の研究成果を理解して聞くことができ、知的好奇心が止まりませんでした。大学という知識の宝庫に戻れたことを大変満足しています。

まだまだ始まったばかりですが、楽しんで勉強しております。もし社会人博士に興味をもっている方がいましたら、ぜひトライすることをお勧めします。



林直人准教授（左）と私吉川（右）

以上